

19世紀後半のアメリカにおける紳士用服飾品の消長

横山 寿子

Ups and Downs of Men's Furnishing Goods in the U. S. A. during the Latter Half of the 19th Century

Hisako YOKOYAMA

はじめに

現代の衣生活を地球規模で見ると、少数民族や隔絶された地域に住み民族服を着用する人々以外は、ほとんどの人々が既製服を着用している。すなわち既製服の浸透は、地域、民族を越えた社会現象の一つとしてとらえることができる。しかし、既製服の歴史、その発達要因については、ほとんど研究がなされていない。これまでの服飾史の中で、19世紀末における既製服は量産のために画一化を促進させたアメリカ特有のものであり、ヨーロッパにも影響を及ぼすが低品質で低俗なものとして扱われた。日本においては1988年に出版された鍛島康子氏の『既製服の時代』によって Josse Elliphalet pope 等の著書を資料として研究対象とされている程度である。そこで、1998年には、著者による「19世紀後半アメリカにおける紳士服産業」の論文の中で19世紀後半における紳士服産業の製造過程の変遷を経済統計及び当時の広告等をもとにした検証によって、飛躍的に成長した紳士服産業の生産高の伸びは年代による諸形態、テーラー・苦汗労働制・請負制・工場制・部門別生産制の競争及び市場の住み分けによる共存と市場規模拡大等にともなう編成替えによって支えられ、アメリカ特有の大量の移民という労働力なしには存在し得なかったという特徴を明らかにした。この論文のための調査において資料として用いた The New York Times 紙には、紳士服以外にも「シャツ」、「ネクタイ」、「帽子」などの紳士用服飾品が多数広告されており、紳士服のみならず紳士用服飾品においても既製服化が促進されていたと推測される。また、紳士用服飾品の方が紳士服よりも構成学的に見れば単純であり、縫製面においても既製服化されやすいと考えられる。すなわち、紳士服だけではなくその他の服飾品についても研究することは既製服の研究において非常に重要であるにもかかわらず、従来の服飾史において紳士用服飾品についての研究はほとんどなされていない。そこで本稿では国勢調査における紳士用服飾品に関する項目に着目し、更に実際に販売された服飾品の品目と比較検討するとともに、主な服飾品の生産高や事業所数を統計的に解析することによって、19世紀後半のアメリカにおける紳士用服飾品の消長を明らかにしようとするものである。

方 法

1. それぞれの時代における生産高と事業所数の推移を明らかにするためにアメリカ合衆国国勢調査を資料とした。はじめに国勢調査における紳士用服飾品の関連項目の調査を行い、次

に実際に販売された製品を明らかにするために新聞広告における紳士用服飾品の品目の調査分類を行い比較検討し、更に各紳士用服飾品について国勢調査における事業所数と生産高の推移の検討を行った。資料として『American Industry and Manufactures in the 19th Century』vol. 5～vol.17としてまとめられた国勢調査統計表, 1851年から1900年までの期間内のThe New York Times紙に掲載された558件の広告をもとに調査及び分析を行った。

2. それぞれの時代における各産業の消長を明らかにするために、主な紳士用服飾品産業の国勢調査の生産高及び事業所数より10年毎の伸び率を算出した。更に、「Clothing, men's」の伸び率を加え、紳士服を含めた紳士用服飾品全体の動向をとらえるために解析を行った。

結果及び考察

1. それぞれの時代における生産高と事業所数の推移

はじめに19世紀後半に着用された紳士用服飾品の種類を明らかにするために、国勢調査における紳士用服飾品の関連項目の調査を行った。アメリカの国勢調査は、産業の事業所数、資本、従業員数、人件費、原材料費、生産高等を統計的に調査したものである。調査対象は農作物及

表1 国勢調査における紳士用服飾品の関連項目

項 目	1850 年	1860 年	1870 年	1880 年	1890 年	1900 年
Belt clasps and slides		●				
Belting and hose, leather			●	●	●	●
Belting and hose, linen				●	●	●
Belting and hose, rubber				●	●	●
Boots and shoes	●	●	●	●		
Boots and shoe patterns		●				
Shoe and boot tips		●				
Boot and shoe findings			●	●	●	●
Boot and shoe cut stock				●	●	●
Boot and shoe uppers				●	●	●
Boots and shoes, rubber				●	●	●
Boot and shoes, custom work and repairing					●	●
Boots and shoes, factory product					●	●
Collars and cuffs, paper				●	●	●
Cotton ties				●	●	
Furnishing goods, men's				●	●	●
Gloves	●					
Gloves and mittens		●	●	●	●	●
Hats and caps	●	●	●			
Hat-bodies		●				
Hat-tips		●				
Hat materials			●			
Hat and cap materials				●	●	●
Hats and caps, not including wool hats				●	●	●
Wool hats				●	●	●
Hosiery	●	●	●			
Hosiery and knit goods				●	●	●
shirts				●	●	●

●は各年の国勢調査における調査項目であることを示す

表 2 新聞広告における紳士用服飾品の品目

品 目	1851 ~ 1859 年	1860 ~ 1869 年	1870 ~ 1879 年	1880 ~ 1889 年	1890 ~ 1899 年	1900 年
collars	●				●	
collars and cuffs					●	
cuffs					●	
paper collars	●					
cravats	●				●	
neck ties	●					
scarfs					●	
ties	●					
dress shirts			●	●	●	
mechanics shirts	●					
negligee shirts					●	
outing shirts					●	
shirts	●	●	●	●	●	●
caps					●	
gloves	●		●		●	●
silk caps					●	
silk hats					●	●
straw hats					●	
half hose	●		●	●		
under wear					●	●
wool under wear					●	●
drawers	●		●			
robes	●				●	●
handkerchiefs	●					
shawls	●					

資料) The New York Times 紙 1851 ~ 1900 年における新聞広告 558 件より作成

表 3 紳士用服飾品の事業所数の推移

(社)

項 目	1850 年	1860 年	1870 年	1880 年	1890 年	1900 年
Belting and hose	*	*	91	99	119	130
Boots and shoes	11,305	12,486	23,428	17,972	22,885	25,160
Clothing, men's	4,278	4,014	7,838	6,166	18,458	27,865
Collars and cuffs, paper	*	*	*	13	3	34
Cotton ties	*	*	*	6	3	*
Furnishing goods, men's	*	*	*	161	586	470
Gloves and mittens	110	126	221	300	324	394
Hats and caps	1,048	655	483	532	737	920
Hosiery and knit goods	85	197	248	359	796	921
Shirts	*	*	*	549	869	986

* 記載無し

資料出所) アメリカ合衆国国勢調査

表4 紳士用服飾品の生産高の推移

(\$)

項 目	1850 年	1860 年	1870 年	1880 年	1890 年	1900 年
Belting and hose	*	*	4,558,043	7,633,737	14,924,416	17,509,358
Boots and shoes	53,967,408	91,889,298	181,644,090	196,920,481	255,506,009	287,579,258
Clothing, men's	48,311,709	80,830,555	147,650,878	209,548,460	337,238,760	414,575,889
Collars and cuffs, paper	*	*	*	1,582,571	301,093	1,976,129
Cotton ties	*	*	*	262,351	11,950	*
Furnishing goods, men's	*	*	*	11,566,857	29,870,946	43,902,162
Gloves and mittens	708,184	1,176,795	3,998,521	7,379,605	10,103,821	16,926,156
Hats and caps	14,319,864	16,937,782	24,848,167	29,819,676	37,311,599	49,205,667
Hosiery and knit goods	1,028,102	7,280,606	18,411,164	29,167,227	72,570,934	99,068,108
Shirts	*	*	*	20,130,031	33,638,593	49,022,845

* 記載無し

資料出所) アメリカ合衆国国勢調査

び工業製品について産業全体が網羅されている。服飾については1850年に実施された第7回の国勢調査より掲載され、1900年の第12回国勢調査までには10年毎に6回分のデーターが蓄積されている。一般的に項目は年代を追う毎に細分化される傾向にあり、また、特定の期間のみ掲載されている項目からはその時代の特色が反映される。服飾関係の項目においても同様である。それらの中から、1850年から1900年までの紳士用服飾品の関連項目を抜粋し、表1に示した。次に、新聞広告における紳士用服飾品の品目を発刊初年の1851年から1900年まで調査し、558件の資料を収集した。それらを1851年から1859年、1860年から1869年、1870年から1879年、1880年から1889年、1890年から1899年及び1900年の6区分の期間に区分し、表2に示した。黒丸は、左側の項目が該当する期間に掲載されたことを示す。更に、国勢調査における紳士用服飾品の項目と実際に販売された商品の品目とを比較検討し、重要と考えられる紳士用服飾品9品目、「Belting and hose」、「Boots and shoes」、「Collars and cuffs」、「Cotton ties」、「Furnishing goods, men's」、「Gloves and mittens」、「Hats and caps」、「Hosiery and knit goods」、「Shirts」に着目し、事業所数の推移を表3に、生産高の推移を表4に示した。但し、部品や製品の材料を製造する産業は除き、服飾として用いられる製品に関する項目のみを採択した。上記9種の服飾品の国勢調査における調査項目及び新聞広告における商品の品目の推移、国勢調査の事業所数及び生産高の推移を以下にまとめた。

(1) Belting and hose

ベルトとホーズ産業に関する国勢調査の統計項目としては、1860年には「belt clasps and slides」として1社のベルト用金具の製造業者が報告されている。1870年からはベルト及び皮革製のホーズの製造会社が「Belting and hose, leather」として91社登場した。1880年から1900年には更にベルトに麻製のホーズあるいはゴム製のホーズを併せて販売する製造業者が加わり、項目としては「Belting and hose, leather」に「Belting and hose, linen」と「Belting and hose, rubber」が加わり3種に分類された。この3種類のベルトとホーズ産業の事業所数は、表3に上げたように、1870年には91社、1880年には99社、1890年には119社、1900年には130社であり、ゆるやかな増加を示している。生産高については表4に上げたように、1870年の4,558,043ドルから1880年には7,633,737ドル、1890年には14,924,416ドル、1900年には17,509,358ドルへと著しく増加した。

(2) Boots and shoes

靴産業に関する国勢調査項目は、1850 年の「Boots and Shoes」から始まり 1860 年の「Shoe and Boot tips」（靴用先革産業）と「Boot and shoe patterns」の 2 項目が加わり 3 項目となり、1870 年には「Boots and Shoes」と「Boot and shoe findings」（靴用金具産業）の 2 項目へと統括され、1880 年には「Boots and Shoes」に「Boot and cut stock」、「Boot and shoe findings」、「Boots and shoes uppers」と「Boots and shoes, rubber」等の部品の製造業者が加わり 5 項目となった。更に 1890 年以降は「Boots and shoes」が製造過程の違いによって「Boots and shoes, custom work and repairing」と「Boots and shoes, factory products」の 2 項目に細分化され、計 6 項目へと変化した。これらの項目の推移からは、1850 年には靴屋によって靴全体が製造されていたが、1860 年から靴型産業と靴用の先革を製造する産業が加わり靴の製造過程の細分化が始まったことがわかる。1880 年以降、ゴム製のオーバーシューズを製造する産業や釘、鳩目金、靴紐、締め金を製造する靴用金具産業が加わり、1890 年以降は工場製品と注文仕立てが区別された。この細分化及び工場製品の台頭は紳士服産業の動向と同一であり非常に興味深い。上記の中で商品と直接結びついた項目「Boots and Shoes」、「Boots and shoes, custom work and repairing」と「Boots and shoes, Factory products」の項目に対応する産業の事業所数は、服飾品関連の産業の中では格段に多く、1850 年には 11,305 社、1860 年には 12,486 社、1870 年には 23,428 社、1880 年には 17,972 社、1890 年には 22,885 社、1900 年には 25,160 社であり、1860 年代に飛躍的に増加した産業であった。生産高は、1850 年には 53,967,408 ドルであったものが、1860 年には 91,889,298 ドル、1870 年には 181,644,090 ドル、1880 年には 196,920,481 ドル、1890 年には 255,506,009 ドル、1900 年には 287,579,258 ドルであった。事業所数の推移と生産高の推移を比較すると、生産高の増加の要因がそれぞれの時代によって変化しているが、特に事業所数の伸びを生産高の伸びが上回った 1860 年代及び 1880 年代に産業規模の転換期があったと考えられる。

(3) Collars and cuffs

衿とカフス産業についての国勢調査の結果は、1880 年以降 1900 年まで「Collars and cuffs, paper」の項目において統計された。事業所数は 1880 年には 13 社、1890 年には 3 社に激減し、1900 年には 34 社へと再び増加した。生産高については、1880 年には 1,582,571 ドルであったものが、1890 年には 301,093 ドルで伸び率 81.0 % 減少し、1900 年には 1,976,129 ドルへと伸び率 556.3 % で急増した。1890 年における減少及び 1890 年から 1900 年への急増の要因については非常に興味深い問題である。販売品目としては、「Collars」、「Cuffs」、「Paper collars」であった。これらの別売の衿やカフスについて研究はほとんどなされていない。

(4) Cotton ties

綿ネクタイ産業についての国勢調査の結果は、1880 年と 1890 年の 2 回のみであり「Cotton ties」として登場し、1880 年から 1890 年にかけて流行したものと考えられる。事業所数は非常に少なく、1880 年には 6 社、1890 年には 3 社であった。販売品目としては、今回の資料においては「Cotton ties」として広告されたものはなく、表 2 に示したように 1850 年代には「cravats」、「ties」、「neck ties」、1890 年代には「cravats」と「scarfs」が広告されている。生産高については、1880 年の 262,351 ドルから 1890 年には 11,950 ドルとなり伸び率 95.4 % で減少した。短期間に登場し衰退した綿ネクタイがどのような製品であったか、着用した階層、また、この産業の盛衰については、今後の研究課題であり非常に興味深いテーマであろう。

(5) Furnishing goods, men's

紳士用服飾品についての国勢調査の結果は、1880 年以降 1900 年まで「Furnishing goods, men's」

として継続して報告された。事業所数は、1880年に161社、1890年には586社へと伸び率264.0%で急増したが、1900年には470社へ伸び率19.8%で減少した。生産高については、1880年には11,566,857ドルであったものが、1890年には29,870,946ドルへ飛躍的に成長し、その後も更に増加し1900年には43,902,162ドルであった。生産高の伸びに対し事業所数の増減が激しく、競争の激しい産業であったことがわかる。新聞の広告上に掲載される場合は、表2に示した中の「robes」, [handkerchiefs], 「shawl」, 「drawers」, 「shirts」, 「gloves」, 「ties」, 「collars」, 「cravats」, 「scarf」など様々な種類のものが紳士用服飾品として取り扱われていた。国勢調査に登場した1880年以降には、同時期にシャツ産業、ネクタイ産業、衿とカフス産業等が登場し、紳士用服飾品産業がこの頃から盛んになったことがわかる。また、独立した項目をもつものはこの「Furnishing goods, men's」の項目対象ではないということを、統計値を解析する上で考慮しなければならない。

(6) Gloves and mittens

国勢調査において1850年の「Gloves」という項目から、1860年以降1900年までは「Gloves and mittens」の項目に変わり、事業所数は、1850年の110社から1860年には126社、1870年には221社、1880年には300社、1890年には324社、1900年には394社と年々増加し、19世紀後半を通じて継続的に繁栄した産業であったことがわかる。生産高については、1850年には708,184ドル、1860年には1,176,795ドル、1870年には3,998,521ドル、1880年には7,379,605ドル、1890年には10,103,821ドル、1900年には16,926,156ドルであり、1860年から1870年にかけて南北戦争後の好景気に乗って成長し、その後も成長し続けた産業であった。

(7) Hats and caps

帽子産業についての国勢調査の結果は、1850年から1870年までは、「Hats and caps」の項目で報告され、1860年には「Hat-bodies」と「Hat-tips」の2種の帽子用部品産業が加わり3項目になるが、1870年からは「Hats materials」に統合され2項目となり、1880年以降は「Hats and caps」が「Hats and caps, not including wool hats.」と「Wool hats」に細分化され、「Hats materials」が「Hats and cap, materials」となり3項目となった。これらの中で商品を製造する産業として「Hats and cups」と「Hats and cups, not including wool hats.」と「Wool hats」を取り上げ産業の伸びを考察すると、事業所数は1850年にはすでに1,048社も存在していたが、1860年には655社へと37.5%も激減し、更に1870年には532社へ26.3%減少したが、1880年以降は増加傾向になり、1880年には532社、1890年には737社、1900年には920社へ増加した。それに対し生産高は、1850年は14,319,86ドルであり、1860年には16,937,782ドル、1870年には24,848,167ドル、1880年には29,819,676ドル、1890年には37,311,599ドル、1900年には49,205,667ドルへと常に増加し、19世紀後半を通じて成長した産業であった。この産業においては1850年代から1860年代を通じて激しい競争が起こり、小規模な産業は淘汰され産業規模の拡大や機械化における生産効率の向上によって競争力をつけた産業のみが繁栄するという構造が見られた。1890年代は写真資料などに見られるように帽子はこの時代の必需品であり、1880年以降枝別れたウールハットを含めて帽子を被ることがこの時代の特色であったことが継続的な生産高の向上へと繋がったと考えられる。

(8) Hosiery and Knit Goods

靴下産業についての国勢調査の項目は、1850年から1870年までの「Hosiery」が1880年以降1900年まで「Hosiery and Knit Goods」となり、靴下のみならずニット製品を共に製造するようになり成長した産業であったことがわかる。事業所数は、1850年の85社から始まり、1860年

には 197 社、1870 年には 248 社、1880 年には 359 社、1890 年には 796 社、1900 年には 921 社であり、19 世紀後半を通じて安定して増加した産業であった。また、生産高についても、1850 年には 1,028,102 ドルであったものが、1860 年には 7,280,606 ドルへと伸び率 608.2 % と飛躍的に急増し、その後も 1870 年には 18,411,164 ドルで伸び率 152.9 % の増加、1880 年には 29,167,227 ドルで伸び率 58.4 % の増加、更に 1890 年には 72,570,938 ドルで 148.8 % の増加、1900 年には 99,068,108 ドルで 36.5 % の増加であり、減少することなく 1850 年当初から 1900 年まで著しく成長した産業であった。

(9) Shirts

シャツ産業についての国勢調査結果は、1880 年以降 1900 年まで「Shirts」の項目において統計された。事業所数は 1880 年の 549 社から 1890 年には 869 社となり伸び率 58.3 % の増加、更に 1900 年には 986 社で伸び率 13.5 % の増加であり、1880 年代から事業所数が急増した産業であった。これに対して生産高も更に著しく増加し、1880 年には 20,130,031 ドルであったものが 1890 年には 33,638,593 ドルへと伸び率 67.1 % で急増し、更に 1900 年には 49,022,845 ドルへ伸び率 45.7 % で成長した。1900 年には生産高の伸びが事業所数の増加を 22.2 % も上回り、1890 年代に 1 社における生産規模が拡大した産業であったと考えられる。The New York Times において広告された実際の販売品目は、1850 年には「shirts」と「mechanics shirts」、1870 年から「dress shirts」が加わり、1890 年には「negligee shirts」や「outing shirts」も加り、産業の発達と共に用途・種類が豊富に製造販売されていく様子が伺える。

2. それぞれの時期における各産業の消長

生産高の伸び率は産業の盛衰を端的に示すと考えられ、上記 9 項目の紳士用服飾品産業についての生産高の伸び率を国勢調査における統計値より算出し、更に紳士服飾全体の動向を明らかにするために、紳士服の生産高の伸び率を含めて図 1 に示した。紳士服産業の項目としては、1850 年の「Clothing and tailors」、1860 年から 1880 年までは「Clothing, men's」、1890 年から 1900 年までは「Clothing, men's, custom work and repairing.」と「Clothing, men's, factory products.」を用いた。また、生産高の伸び率と比較するため国勢調査の統計値より事業所数の伸び率を算出し、各産業の成長について考察し以下にまとめた。

ベルト及びホーズ産業の生産高については、1870 年から 1880 年へは 67.5 % 増、1880 年から 1890 年へは 95.5 % 増、1890 年から 1900 年へは 17.3 % 増であり、1870 年以降非常に大きな伸びを示した産業であった。事業所数の伸び率は、1870 年から 1880 年には 8.8 % 増であり、1880 年から 1890 年には 20.2 % 増であり、事業所数の伸びに比べ生産高の伸びが著しいことから、この頃から生産効率が向上したと考えられる。

靴産業の生産高の伸びについては、1850 年から 1860 年へは 70.3 % 増、1860 年から 1870 年へは 97.7 % 増、1870 年から 1880 年へは 8.4 % 増、1880 年から 1890 年へは 29.8 % 増、1890 年から 1900 年へは 12.6 % 増であり、1850 年から 1870 年に非常に産業が大きくなり、その後も 1900 年まで減少することなく成長した。事業所数の伸び率は、1850 年から 1860 年へは 10.4 % 増、1860 年から 1870 年へは 87.6 % 増、1870 年から 1880 年へは 23.3 % 減、1880 年から 1890 年へは 23.7 % 増、1890 年から 1900 年へは 9.9 % 増であり、1860 年から 1870 年に飛躍的に増加した。生産高の推移と事業所数の推移を比較すると、1850 年から 1860 年へは生産効率が向上し、1860 年代は事業所数の増加によって産業全体の生産高が向上し、1870 年代には生産高が 8.4 % 上昇しているにもかかわらず事業所数は 23.3 % 減であり弱小な靴産業が淘汰された時期であったことがわかる。1880 年から 1890 年へは生産高の伸び率と事業所数の伸び率がほぼ等

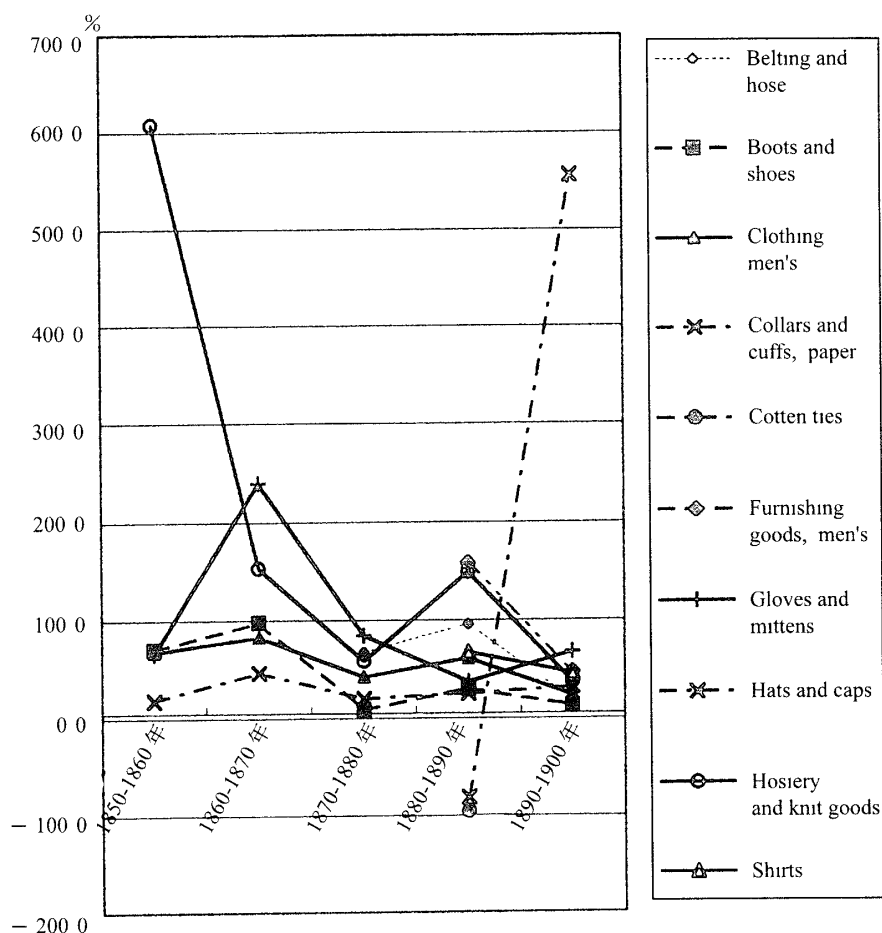


図1 紳士服飾産業の生産高の伸び率の推移

しく、事業所数が増加することによって生産高が大きくなったといえる。

衿とカフス産業については、1880年から1890年への事業所数の伸び率76.9%減少、生産高の伸び率81.0%減少に対し、1890年から1900年へは事業所数の伸び率1033.3%の増加、生産高の伸び率556.3%で共に急増し、盛衰の激しい産業であった。

綿ネクタイ産業については、1880年に国勢調査の対象となったが、1890年以降衰退し1900年には記載無しであった。生産高の伸び率は1880年から1890年まで95.4%減少、事業所数も50.0%の減少であった。

紳士用服飾品の生産高の伸びについては、1880年から1890年へは158.2%増、1890年から1900年へは47.0%増であり、それに対し事業所数は1880年から1890年へは264.0%へ急増し、1890年から1900年へは19.8%減であった。生産高の伸びと事業所数の伸びを比較すると、生産高の伸びを促進させた要因は、1880年代には1事業所の生産効率が向上するのではなく零細な事業所の急激な増加によって、1890年代には1事業所における生産規模の拡大によるものであったことがわかる。

手袋産業の生産高の伸び率については、1850年から1860年へは66.2%増、1860年から1870年へは239.8%増と飛躍的に増加し、更に1870年から1880年へは84.6%増、1880年から1890年へは36.9%増、1890年から1900年へは67.5%増であり19世紀後半を通じて成長した産業であった。事業所数の伸び率については、1850年から1860年へは14.5%増、1860年から1870年へは75.4%増、1870年から1880年へは35.7%増、1880年から1890年へは8%増、1890年

から 1900 年へは 21.6 % 増であった。生産高の伸び率と事業所数の伸び率を比較すると、社内における生産効率の向上及び事業所数の増加によって産業全体の生産高が飛躍的に成長した産業であったことがわかる。

帽子産業の生産高の伸び率は、1850 年から 1860 年へは 18.3 % 増、1860 年から 1870 年へは 46.7 % 増、1870 年から 1880 年へは 20.0 % 増、1880 年から 1890 年には 25.1 % 増、1890 年から 1900 年には 31.9 % 増であり 19 世紀後半を通じて成長した産業であった。事業所数の伸び率は、1850 年から 1860 年へは 37.5 % 減、1860 年から 1870 年へは 26.3 % 減、1870 年から 1880 年へは 10.1 % 増、1880 年から 1890 年へは 38.5 % 増、1890 年から 1900 年へは 24.8 % 増であった。事業所数の増減と生産高の伸びを比較すると、1850 年から 1870 年までの間に産業規模が拡大し弱小な会社が淘汰され、1870 年以降には規模の拡大した会社の件数が増加し、産業全体の生産高が向上したことがわかる。

靴下とニット産業の生産高の伸び率は、1850 年から 1860 年には 608.2 % も急増し、その後も 1860 年から 1870 年へは 152.9 % 増、1870 年から 1880 年へは 58.4 % 増、1880 から 1890 年へは 148.8 % 増、1890 年から 1900 年へは 36.5 % 増であった。他の紳士用服飾品産業に先駆けて 1850 年代に生産効率の向上及び事業所数の増加によって産業は飛躍的に成長し、更に 1860 年以降も生産高を伸ばし続け、19 世紀後半を通じて急速に成長した代表的な服飾産業であった。

シャツ産業の生産高の伸び率は、1880 年から 1890 年へは 67.1 % 増、1890 年から 1900 年へは 45.7 % 増であり、1870 年以降急激に発達した産業であった。事業所数の伸び率は、1880 年には 58.3 % 増、1890 年から 1900 年へは 13.5 % 増であった。生産高の伸びと事業所数の伸びを比較すると 1880 年から 1900 年にかけて 1 事業所あたりの生産効率及び事業所数の増加によって産業全体が成長したことがわかる。

紳士服産業の生産高の伸び率は、1850 年から 1860 年へは 67.3 % 増、1860 年から 1870 年へは 82.7 % 増、1870 年から 1880 年へは 41.9 % 増、1880 年から 1890 年へは 60.9 % 増、1890 年から 1900 年へは 22.9 % 増であり、特に 1860 年から 1870 年に最も著しく増加し、次に 1880 年から 1890 年への伸びが著しい。この動向は今回分析した他の服飾品産業の伸び率と類似していることがわかる。1860 年から 1870 年への伸びは南北戦争の影響であり、南北戦争中には軍服が通常の 1.5 倍で取り引きされ、更に帰還兵が着用する私服の需要が高まり、これらのことが紳士服飾産業へのミシンの導入や産業規模の拡大を促進する刺激となった。1880 年から 1890 年への伸びは、産業間の競争に促進されたミシンの導入を含め工場生産化の影響であると考えられる。すなわち、生産高だけを見れば各産業における差異が認められるが、生産高の上下に示される動向を見ると紳士服のみならず他の紳士用服飾品においても工場製品化が展開されていたことがわかる。

お わ り に

19 世紀後半に行われた国勢調査における紳士服以外の紳士用服飾品に関する項目の変遷を調査し、併せて The New York Times 紙の広告における商品の品名を調査し分類することによって実際に着用された紳士服以外の紳士用服飾品の種類を明らかにし、更に、生産高及び事業所数を解析することによって以下の各年代における紳士用服飾品の消長の特色を明らかにした。

- (1) 1850 年から 1900 年間ににおける各紳士用服飾産業の動向について生産高の変動時期の差異は認められたが、紳士服産業のみならず紳士服飾産業全体として成長する傾向が認められた。
- (2) 1860 年から 1870 年の期間には全ての紳士用服飾産業が南北戦争後の好景気の影響を強く

受けて成長した。

(3) 1880年から1890年間には工場生産化によって急激に成長した産業が多い反面、逆に衰退した産業もあった。

(4) 上記以外に靴下及びニット産業や衿及びカフス産業のように個別に増減した特異な産業が存在した。

今回取り上げた各産業の盛衰についての要因及び服飾品の特質、注文仕立てから既製品への移行についての詳細な研究が今後の課題である。

文 献

- 1) マックス・フォン・ペーン：モードの生活文化史 2, 303～437, 河出書房新社(1990)
- 2) 鍛島康子：既製服の時代, 家政教育社(1988)
- 3) Government Document: American Industry and Manufacture in the 19th century, vol. 5～vol. 17, Maxwell Reprint Co. (1870)
- 4) 横山寿子：19世紀後半アメリカにおける紳士服産業, 65～77, 名古屋女子大学紀要 家政・自然 No. 44号(1998)
- 5) Mary Black: Old New York in Early photographs, Dover publications, Inc. (1973)